

幼保小連携研修だより

NO. 1

秋田市教育研究所
H25. 12. 9

秋田市では就学前の子どもたちが小学校入学時にスムーズに学校生活に適應できるよう、幼稚園、保育園・保育所と小学校の連携を重視し、連続性のある指導の充実を図ることが大切であるとの考えから、平成19年度より小学校と幼稚園、保育園・保育所の教員や保育士を対象とする研修会（「生活科研修会」「幼保小連携研修会」「特別支援教育研修会」）を実施しております。今年度は幼稚園教諭29名、保育士64名に参加いただき、各研修会が充実したものとなりました。今号では、生活科研修会と幼保小連携研修会の様子を紹介いたします。

生活科研修会の様子

ねらい 幼児期からの学びの連続性を踏まえて、活動や体験を生かした学習指導や子どもの気づきの質を高める工夫について研修し、指導力の向上を図る。

日時	平成25年7月29日（月） 13:00～16:45		
会場	秋田市大森山動物園 ミルヴェ		
参加者	小学校教員、幼稚園教員、保育士		
内容	(1) 講話	「動物との関わりから学ぶこと」 秋田市大森山動物園長	小松 守 氏
	(2) 演習	「動物園内ウォークラリー」 秋田市教育委員会指導主事	大月真由美
	(3) グループ協議	「学びをつなぐ～遊びの中の学びと生活科の気づき～」	

講話「動物との関わりから学ぶこと」では、初めに、参加者全員が数種類のブラックボックスに手を入れ、箱の中の動物に直接触れてみることで、動物の体温や鼓動を体感しました。その後、小松園長から動物体験の重要性についてお話していただきました。乳幼児期から小学校低学年までの数年間は、人生の基礎をつくり上げる大切な時期であり、この期間に様々な体験、体感をし、多くの感覚を体の中に染みこませていくことが大切であること、動物と関わる体験は、子どもが自分の命、他の命を意識できる、「生きること」を学ぶ最高の教材であることなどについて、ご自身の経験を交えながらお話くださいました。

（参加者の感想から）

- ・感覚という見えない能力を伸ばしていくためには、幼児期、児童期の体験や経験がとても大切であることを痛感しました。私たち教師は、子どもに豊かな人間性をはぐくむ一端を担う一人として、子どもが様々なことを体感できるような活動を意図的に設定していく必要があると感じました。
- ・子どもたちが動物の命と接することで、自分も生きていることを実感し、そこから子どもたちに他者を思いやる気持ちがはぐくまれていくということが分かりました。



幼保小連携研修会の様子

ねらい 幼児教育についての理解や小学校教育との連携の在り方についての研修をとおり、幼保小連携に関する今日的な教育課題に対応できる資質や能力の向上を図る。

日時 平成25年8月1日(木) 9:00～12:00

会場 秋田市教育研究所

参加者 小学校教員、幼稚園教員、保育士

内容 (1)講義・実技 「子どもの心をつかむ遊び・ゲーム」

聖園学園短期大学教授 内藤 裕子 先生

(2)実践発表 「幼児教育と小学校教育の円滑な接続の在り方

～幼児教育を踏まえた1年生の指導から～

秋田市立御所野小学校教諭 佐藤さくら 先生

(3)グループ協議 「発達と学びをつなぐ幼保小連携について」



講義・実技「子どもの心をつかむ遊び・ゲーム」では、内藤教授から、すぐに実践できる遊びやゲームを紹介していただきました。遊びの中には、規範意識を身に付ける、自分の思いを表現する、体をつくるなどの様々な学びがあり、子どもたちは楽しみながら人間関係を円滑にしたり、自己肯定感を高めたりすることができるということを実技をとおりして、指導していただきました。

参加者からは、「ゲームの内容ももちろんですが、内藤先生の話し方や表情が子どもを引きつける指導に通じると感じました。子どもの前で話すときに参考にしたいです。」

「実際に遊びを経験してみて、自然と体を動かしながら、人間関係を育むことができることが分かりました。遊びのすごさ、大切さを改めて実感しました。」といった感想が寄せられました。

実践発表では、御所野小学校佐藤先生から、今年度の御所野小学校1年部の取組について紹介していただきました。御所野小学校では、入学した子どもたちが安心感をもって学校生活を送ることができるよう、学年部でスタートカリキュラムを作成し、指導に生かしています。

参加した幼稚園教員、保育士からは、「佐藤先生のお話を聞き、小学校では子どもたちが小学校生活に慣れることができるよう、様々な配慮をしてくれていることが分かり安心しました。」「小学校のスタートカリキュラムを見ることで、どのようなことが保育園で必要なのか、保育園で行っていることがどのようにつながっていくのかがよく分かりました。自分の保育の仕方を見直すよい機会となりました。」といった感想が寄せられました。

《担当者から》

- 今年度は、幼保小連携した3つの研修会を合わせ、147名の参加がありました。参加者が年々増えているとともに、協議会では活発に意見交換する様子が見られ、先生方の幼保小連携に対する意識が高まっていると感じています。来年度も多くの先生方にご参加いただき、充実した研修にしたいと考えております。



